

サロンのあべの

VOL.197

〈サロン・あべの〉10月の出会い

平成14年10月19日(土)、〈サロン・あべの〉10月の出会いは、大阪府立看護大学医療技術短期大学部理学療法学科・助教授の奥田邦晴氏に「(障害者の)スポーツに親しもう〜特に重度障害者のスポーツを中心として〜」をテーマにお話を伺いました。

・理学療法からのアプローチ

リハビリテーションとは、身体的、精神的かつ、また社会的にもっとも適した機能水準の達成を可能とすることによって、各個人が自らの人生を自分らしく生きていく手段を提供していくことを目的とする。

理学療法の対象は体に障害をもっている人で、基本的動作能力、座る、立つ、歩くなどで、一般的に病院では、時間を限定した医学的リハビリテーションが施される。しかし理学療法の最終目標は、その人の自立生活であり、自己実現である。

・クラス分け

身体障害の人が競技スポーツをする場合に同じ程度の状態の人と競わないと不公平が生じる。例えば、車いすバスケット

(障害者の) スポーツに親しもう〜特に重度障害者のスポーツを中心として〜

ボールでは、1チーム5名の選手の身体能力の合計点数が14点以下で構成することになっている。これは、チーム構成を軽度の人で固めないために決められたルールである。競技者の中には、能力判定の際に少しでも障害の度合いを悪い状態に診てもらい、低い点数を得ようとする人もいて、判定の時は手が上がらないふりをしていても、競技中に思わず手を上げてボールを処理出来ることもあり、判定員は不公平がないよう試合中も目を光らせている。

・障害者のスポーツが有する多面的意義

障害者のスポーツを研究するため、多くの障害者(頸髄損傷・胸髄損傷・脳性まひ)に対してスポーツをするきっかけ、その後の変化などいろいろな項目でアンケート調査を行った。

その結果、スポーツを始めてから、自分の障害を受け入れられるようになった、自分の可能性を見いだせた、障害を自分の一部として認められるようになったなど、スポーツが障害受容を促すような効果があることがわかった。

スポーツは障害者が充実した自立生活を送ることや、自己実現を可能とする一手段として、また、重度障害者が社会に踏

み出す一歩としての重要な役割を有していることもわかった。

スライドとお話の間に障害者のスポーツを紹介したビデオをいくつか鑑賞。

国際大会の一つに脳性まひの人を対象としたスポーツ大会「ロビンフッド大会」がある。4年に1回イギリスのノッティンガムで開催されており、参加費用は自己負担だが、自国の予選や選考はなく自分の意志で行きたい人が参加できる。とはいえ当然、参加者は得意種目を日々練習している人たちばかりである。水泳競技で、四肢障害の人が懸命に泳ぐ姿があつたがすごい。

ポッチャ競技で十分に手が使えない障害者が、ランプスという槌のような道具でボールの方向を決め、競技者の意志でボールを転がしてターゲットボールにより近づける。その一投ごとに状況が変わり、奥深い真剣勝負が繰り広げられていく。ランプスの方向は、競技者が介助者に指示をする。介助者は、競技者と対面で座り、振り向いて競技状況を見てはいけないルールになっている。それだけに競技者・介助者の意思の疎通も大切なのは。最後に奥田先生自身が研究・推奨されているスーツスイミングについての説明がありました。水の中に入るのが怖い、水

の中で浮かれないと思っている人に特製ウエットスーツを着ることで水の中で浮く喜びを体験してもらいながら、身体のリハビリに活用している。ぜひともいろんな人に参加してもらいたいとのことでした。鑑賞した競技者のひたむきな姿勢にはすばらしいものがありました。もちろんスポーツ以外でも残存機能を精一杯生かして、目標に向かって自己表現することは、周りにも感動を与えることが出来ると感じた(サロン・あべの)10月の出会いでした。

参加者15名(山村貴司)

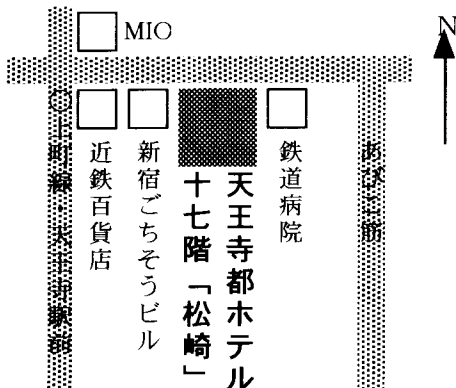


体の不自由な人は、医療機関においては患者であり、社会において障害者であり、スポーツ場面では主人公(選手)・ヒーローである。1人3役である。と、奥田先生

お知らせ

<サロン・あべの>12月の出合い

日 時…12月7日(土)午後12時～
 内 容…思い出作りの昼食会
 場 所…天王寺都ホテル17階「松崎」
 ☎ 06・6623・3200
 最寄り駅・地下鉄御堂筋線「天王寺」
 ・赤バス「あべの橋」
 集合場所…天王寺都ホテル1階ロビー
 集合時間…12月7日(土)午後12時
 会 費…2500円(飲み物は各自負担)
 申し込み締め切り…11月30日
 申し込み・問い合わせ先…
 TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



誰でも参加できる場所へ 第6回 コミュニティガーデンを 支えるシステムについて

林 典生

今回はアメリカのコミュニティガーデンを支えるシステムについて説明したいと思えます。特に、実際にコミュニティガーデンを支えているマスターガーディナーを中心にしていきます。この人達がいないと円滑な活動運営が難しいのがアメリカのコミュニティガーデンの現状であります。

元々、1980年代にアメリカ各州にある農業関連大学で農務省の支援により生涯学習機関が開設され、市民教育を行っていたが、(日本ではようやく農学系大学は始まったばかりであるが、例えば障害を有する大学

生の実習受け入れの話はあまり聞かない様に、質量とも不十分な状況です。)1990年代から地域に応じた園芸や造園について市民からリクエストが殺到し始めたのをうけて、1990年代後半にこのようなリクエストに答えられる専門知識と技術を持つボランティアとしてマスターガーディナーを養成するプログラムを構築し始めました。

1993年にワシントン州シアトルが最初に資格化し、現在ではアメリカ合衆国と州とカナダ州で行われている。現在も農務省の支援を受けながら、シアトルに本部を持っているが、実際の運営は各州に任せられており、各州に実情に応じた実践的なプログラムが行われています。

ただし、最低限の時間が時間と定められ、そのうち2時間土壌学、植物病理学、昆虫学、さらに害虫駆除、剪定手法、農薬類の安全性、ボランティア精神などのメイソナリキュラムに当てることが決まっています。残りの2時間は各州で決めて行われています。

具体的には園芸や造園の基礎知識と技術または運営推進手法、補助金をもらうため

の事業計画申請書や活動報告書の作成手法など実践的なプログラムが組まれている。しかし、現在では地球環境や自然保護や生態系保全の授業も組まれています。(日本ではボランティア団体の方で盛んに行われています。)

これらの授業は地元の大学教授、行政職員、企業の専門家などが受け持つのが現状です。さらに、これは座学だけではなく、修了生であるマスターガーディナーの運営指導によるフィールド学習やボランティア実習を行っていきます。

地域によって異なるがだいたい2時間前後かけて修了した後、一年以内に2時間前後をボランティアとして活動した上で筆記試験を受けて合格したものがマスターガーディナーの資格を得ることが可能になります。この資格はあくまでもボランティアとして通用するもので、ビジネスでの資格活用は禁止されています。

次回以後はアメリカ合衆国から日本に場所を移して、日本のコミュニティガーデン活動の現状や歴史について紹介しますので、お楽しみにしてください。

★平和について

（サロン・あべの）の原稿には政治的なことは書いてはいけなと思うてい。政治にはいろいろな意見や立場があり、その違いをボランティア活動のなかにもつてくると、活動がしにくくなるからである。

それを承知のうえで、先月はやや政治的なことを書いてしまった。平気で書いたのではない。さんざん迷ったあげく、仕方がなくあんなことを書いてしまった。いまのところ苦情は届けられていないみたいだが、不愉快に思った人もいただろうと思うと申し訳ない。

今月もまた（サロン・あべの）の原稿の締切日を迎えて、自分の頭のなかを振り返ってみたのだが、やはり（都合の悪いことに）政治的なことはいっぱいだ。他のことを考えてみようとしたのだが、なかなか難しい。そこで、またしても（サロン・あべの）にはふさわしくない内容

かもしれないと危惧しつつ、思うことを書いておく。

社会福祉の現場にはいないものの、教



育機関のなかで私は社会福祉の充実を目的として働いている。要するに、それこそ私の職業人生が目指すところなのであるが、社会福祉はそもそも平和を前提

としているのである。

いちど戦争になれば社会福祉もなにもない。殺し合いに勝つしか出口はなくなるのである。旅客機がテロリストに乗ったら、高層ビルに突っ込んでいく前に自国のミサイルによって爆破しなければいけないという論理には、もはや社会福祉が考慮される余地はない。そして、恐ろしい現実として、そのような論理が世界の標準になってしまったのである。

だから、やっぱり平和が必要だ、戦争は嫌だと強く思うのだが、いくらそう願っても、どうにもならないのではないかと、やるせない気持ちがある。なかで広がっている。その気持ちは、深い絶望感に通じているはずなのに、いまひとつ実感がないのは、まさか自分や自分の家族にまで被害が及ぶことはないだろうという根拠のない楽観主義があるからだ。

しかし、ニューヨークの崩れ落ちる高層ビルにいた数千の人たちは、誰ひとりとして自分たちのこのような最期を予想していなかったはずだ。最近おきた、ロシアの劇場やバリ島でのテロ事件でも同じこと、誰もそんなところで殺されてしまふとは思ってもいかなかっただろう。

ベルリンの壁が崩されたのはいつだったか、あれから世界は平和になると信じていた。何人かの識者は局地的な歯止めのない戦争が多発するようになるだろうと予想していたが、私は自分の周囲にまで影響があるとは思っていなかった。

冷戦時代に比べたら、とても多くの人々が自由になった。そう考えるのなら人類は進歩しているのである。ここ数年の戦争やテロで死んでしまった多くの人たち、そして、これから起こる戦争やテロで殺されていく数千、数万、もしかしたら数十万の人たちは、より自由で平和な世界の実現のための尊い犠牲になっていくのだろう。正視しがたい恐ろしい現実ではあるが。

(知)

私の尊敬する人

あるきっかけで知り合ったMさんとは、もう五十年近くもおつき合いしてもらっている。小学校のクラスメイトをのぞくと、いちばんふるい知人である。

Mさんと知り合った当時から身体の不自由な私の身の回りの世話や旅行などにつれて行ってもらっている。Mさんはまた宗教心に篤く博識な方なのでいろんなことを教えてもらったり、心うたれたりすることがよくある。

かなり以前のことだが、「たとえば私が誰かと口論したり、けんかをするとしますね。その時、自分が悪かったら素直にあやまります。しかし相手が百パーセント悪いと分かっていることもとん追いつ

晴れのち晴れ

(50)

稲垣 恵雄

めるのではなく、逃げ道をつくっておいてあげるのです」とMさんの言われたことが、今でもはつきり覚えている。

この言葉からMさんのおおらかさ、思いやり、ゆとりなどが感じられるのである。もし私だったらどうだろう。けんかをすればたとえこちらに非があるとわかっていても相手を徹底的に追いつめ、気のすむまで責めなければ落ち着かない。

それだけに「相手が百パーセント悪いと分かっているけど、逃げ道をつくっておいてあげるのです」と言われたMさんの言葉に深く反省させられるのである。

こんなすばらしいMさんを、私は心より尊敬し、いつまでも慕っていきたいと念じている。ちなみにMさんは六十五歳である。

桃栗3年、
柿8年、
サロン・あべのは
2000号

・・・ということ、みなさまから寄せられたいろいろなお話に添えて、サロン紙にまつわるあんな事、こんな話も、ごいっしょに。

「サロン」での出会いと、
仲間の輪に感謝

サロン・にし 関口一枝

西区にて「出会い・ふれ愛」のサロン活動がスタートして、2年が過ぎました。毎月、約20名の方々が、参加されています。ご協力・ご支援いただいている方・参加していただいている方に、心より感謝申し上げます。

「サロン・にし」は、「一見さん」大歓迎の交流の場です。皆様の「癒し空間」として、心のバリアフリーを気軽に楽しんでいます。障害の有無や年齢・性別を問わずみんなで一緒に集い、お茶を飲み・ゲームをしたり・遊んだり・話をしたり・軽スポーツ・勉強会・講演会・社会見学・季節の行楽行事・・・などなど、毎月1回の様々なテーマの活動を通して、老若男女の温

かい「仲間の輪」が広がっています。このサロン活動は、様々な出会いの可能性をもっており、参加者の皆様により多種多様な活動ができると思います。毎月第2土曜日「サロン・にし」に参加している方々の楽しそうな笑顔を見るたびに、私も自然と笑顔になり、皆さんから発信される元気エネルギーをもらっています。老若男女、年齢も問わず多くの方々に参加していただくことが私の一番の楽しみであり、目標でもあります。

今後も、こうした身近な地域の方々が気軽に参加できる、コミュニケーションの場を提供し、様々な楽しい企画を提案し「サロン・にし」での出会いと仲間の輪に感謝しながら、自分なりの小さなボランティア活動を一步一步、続けていきたいと思っています。今後とも、皆様のご参加・ご協力・ご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。老若男女の皆さん、毎月第2土曜日の午後は「サロン・にし」へ来てください！ 皆様のお越しをお待ちしています！

いい人見つけた

ウイズ東淀川 鈴木昭二

一九九四年(平成六年)七月から始まったウイズ東淀川は、たくさんの人との《出会い》がありました。奇数月の第二日曜日に開催する定期的な集まりはいろいろなハプニングが起こります。

数カ月前のことですが、森田真千子さんによる、自由短歌を作って、優秀及び最優秀を決めるのに、なかなか決定できなかった時、私が「みなさん目を閉じて二つの句を聞いてどちらかに手を挙げてください」と提案しましたら、「耳の聞こえない私はどうしたらいいんでしょう？」と、聾(ろう)の方のいわれまして一同大爆笑でした。そう言われて自分の事しか考えていない

自分に苦笑してしまいました。

サロン独特の雰囲気は、いろいろな障害者・健常者・老人子供などが集い、自由に自分の意見や思いを話し合える場であることを実感する出来事でした。

また、たまに行われるイベントで特に人との親密感が深まるものであります。思い起こせば、盲導犬訓練所への見学会と講習、朝日ビール吹田工場への見学・試飲会、天王寺動物園へのかば舎の見学と亀・蛇・うさぎなどをふれて野生を実感。

特に大イベントだったのは昨年春、初めて実施した海外研修旅行「ニュージーランド・シドニー」への旅行でした。何かイベントをすることになると、決まって我々をサポートしてくれる人達が必ずと言っていいほど現れるものです。この時のIDツアーズの添乗員のTさんにも現地視覚障害者協会の人達との交流会を設定していただいたり、盲導犬センターへ下見をしていただいたり我々の希望する見学場所への確認。その他視覚障害者を理解

電話は早い、ファックスもEメールもあるけど、こころ伝わるサロンの絵はがきがいい。

サロンの絵はがき

五枚一組 一八〇円

するために日本の盲導犬施設へ見学に行ったり、本などで視覚障害を理解しようと勉強されました。旅行中においては乗馬や真鯛釣りの初めての経験。最後の夜の、シドニー湾ナイト・クルージングでのロック・バンドにあわせて皆で踊ったサタデー・ナイト・フィーバーは忘れられない思い出です。

立ち上げの準備や第三種郵便の取り扱い手続きなど、奔走していただいたMさん。今は二人の子供さんの子育てに忙し



●200号 あんな事、こんな話——消息

サロン紙は発行して、大体一週間内に皆さんのお手元に届くよう発送準備に入ります。まず、450近くの宛名シールを封筒に貼っていきます。そしてこれを、郵便局の事情があって、郵便番号別に束ねる作業をします。阿倍野区内は10束ずつゴム止め、他の市内や府内は郵便番号の頭3桁で5通以上をひとまとめにします。地域によっては5通未満の所もあり、それらは頭2桁でひとまとめにします。

こうして発送準備が整ったサロン紙は、サロン発足当時よりセルフ社が阿倍野本局まで搬送して下さっており、本当にありがたく思っております。

発送して1週間。着いたよ。あの記事は同感や。次は行くね。などと、便りや電話が入ります。そんな中で特に嬉しいのは執筆者の消息をお訊ねくださることです。先日も「ナンペイちゃん、お元気?」と。また「サロンの出会い」のまとめに山村の名前が出ない時があったときも、心配して訊ねていただきました。出会う出会わないを別にして、サロン紙でこちらの消息を気にかけてくださる読者がおられることに感謝の毎日です。

また逆に、転送期限切れや転居先不明の付箋が付いたサロン紙が戻って来ることがあります。それが、お顔なじみの人、存じ上げない人であっても気がかりになりますが、どうしようもなく名簿から削除します。(け)

く、一時お休みしておられます。それでも最近では子供さんを連れての参加も時々なされるようになってきました。将来また力を貸して頂きたいものです。

ところで、私にとっての人生の達人だと思っている「中西さん」のことを今回特にご紹介させていただきたいと思います。年齢は六十代半ばで、ある製鉄会社を定年退職され、「第二の人生は、今までは違っていて、人とかかわりを持って過ごそ

うと決めたんです」と、おっしゃる。まず、海外旅行をしようとしてエベレストへ挑戦。元気のあるうちに危険なところから始めようとしたそうで、これを皮切りにロシア・バルト三国・ポーランドなどたくさん

の国を訪問されています。

ウイズでは、毎年区民まつりに、十分五百円のクイック・マッサージと並んで、似顔絵一枚五百円で合同出店し、経費を引いた残りを社会福祉施設やグループに寄

付しているのです。今年で七回目の出店も、当初はマッサージだけの店でしたが、四年目から中西さんにも応援をいただき、合同で一つのテントで行っています。年々似顔絵のお客さんも増えて、三人の似顔絵師は大忙しです。このようにして、中西さんとの交流が続いています。

これからのウイズ東淀川も、出会いの「二期一会」を大切に、参加者との「ふれあい」を深めていきたいと思っています。

植物あれこれ 第四十六回

山口康二郎

花と緑と植物園

今冬はエルニーニョ現象で暖冬である
と、気象庁は早々と発表したにもかかわらず、
すでに木枯らし第一号が吹き寒波
の襲来は例年よりはるかに早いよう
です。

銀杏などの黄葉を見に長居植物園に
行って来ました。急な寒波でいかにも寒
そうに葉っぱの端から二〜三センチ黄変
していましたが、気の早いナナカマドは
赤くなっていました。この気候なら紅葉
も間もなく本格化することでしょう。

ぼんやりと景色を眺めていて、ふとあ
る植物学者の言われた言葉が浮かんでき
ました。

「日本では本当の植物園とはどんなも
のか、理解不足のような気がする。公園
と植物園の違いや、植物園が存在する理
由など考えてみたこともない人が多いの
ではないだろうか」という嘆きの言葉で
した。

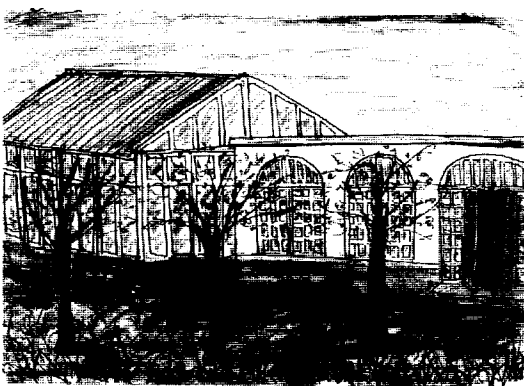
「一般には『規模の大きい公園』『芝生
や花壇のあるリクリエーションの場』と
いう受け止め方をされているようである
が、植物園にはもっと重要な役割がある」
と、いつて植物園の歴史も語ってくださっ
た。

記録に残る植物園は、紀元前三五〇年
頃、アリストテレスがアテネに作ったの
が最初といわれています。ヨーロッパで
は十六世紀から十七世紀には各地で植物
園が作られ、その中心は庭園と薬草園で、
その研究から、リンネの植物命名法やメ
ンデルの遺伝学、ドリーフの突然変異説
など植物学の重要な発見がなされました。
したがってヨーロッパの人たちは、植物
園をアカデミックなものとしてとらえて
おり、単なるリクリエーションの場とは
考えていないようです。

日本では明治八年東京大学付属小石川
植物園が第一号で、元將軍家の薬草園を
模して改造されたものでした。鎖国を廃
して急速に近代化された日本では、植物

園も本来の基礎研究の場としてより、形
を作ることが先行してしまつた傾向は否
めませんが、われわれの知らないところ
で地道な研究が続けられていることは今
も変わりません。

昭和二十五年には二十五園であつた植
物園が、今では一五〇以上に増えまし
た。中には、観光的色彩の強い植物園も
多くありますが、本来の植物園は資源植
物園として、産業発展にも大いに寄与
し、特に種の保存など重要な役割を担っ
ているのです。



美智子のこんな話

岸田美智子

MY-DOKUまいどく公開セミナーのお知らせ

二〇〇三年四月から実施される支援費制度について詳しい内容が発表されてきています。その中で新たな問題も見えてきています。例えば、全身性障害者介護人派遣事業は日常生活支援に変わっていきませんが、この制度と併用して、身体介護、つまり、ホームヘルパー制度の併用は今のところ出来ないと言われてます。多くの介護の必要な障害者は、今まで全

身性障害者介護人派遣事業とホームヘルパー制度の併用で何とか、生活を維持してきた経過があり、この問題は今後議論されていくべきだと思われまます。そして、介護時間数が足りないため、時給を下げ、時間数を延長せざるを得なかった障害者は登録できる事業所はあるのか？ などの問題が残されています。このような問題をこの公開セミナーでも、話し合っていきたいと思っておりますので、積極的な参加をお願いします。

記

日時：二〇〇三年一月十八日(土)

午後一時～四時三十分

場所：住吉区住吉総合福祉センター

大阪市住吉区帝塚山東五―一

―三

南海高野線「住吉東」駅下車

徒歩三分

テーマ：支援費制度決まる！ どうなる私たちの生活

講師：障団連事務局 古田朋也氏

大阪市の担当者(交渉中)

資料代：五〇〇円

連絡先

○自立生活センター・

MY-DOKUまいどく(岸田)

大阪市住吉区長居西一―九―十二

TEL 〇六―六六〇九―三三三三

FAX 〇六―六六〇九―三三二一〇

E-mail=cl-mydo@jasmine.ocn.ne.jp



感謝

カンパ・切手・お茶・お菓子などの寄贈ありがとうございました。

秋山紀美子、岡賀寿子、K・R、佐伯幸子、並松由利子、表谷恵美子、藤井さゆり、藤田はる、松村順子、山本鈴子、その他の方々、



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」12月の出会い

日時:12月15日(日)午後1時30分~4時

場所:淀川区民センター「やすらぎ」

大阪府淀川区三国本町2-14-3

内容:今年最後のサロン楽しく遊ばせませんか

~さまざまな出来事があり、今年も終わろうとしています。みんなで楽しい一時を過ごしませんか、恒例のビンゴゲームもあります。~

会費:なし

問い合わせ先:淀川区社協(ボランティア・ビューロー)

☎06-6394-2900

E-mail:scrjji@risecenet.ne.jp

■「サロン・ひらの」12月の出会い

日時:12月14日(土)午後12時~

場所:にこにこセンター

大阪市平野区平野東2-1-30

内容:クリスマス会(おもちゃ図書館と合同)

参加費:200円

申し込み締め切り:12月6日(金)

問い合わせ先:平野区ボランティア・ビューロー

大西 ☎06-6795-2200

■「サロン・にし」12月の出会い

日時:12月14日(土)午後1時30分~4時

場所:西区ボランティア・ビューロー室

大阪市西区新町4-5-14 6階(西区役所隣)

地下鉄=西長堀駅4A号出口からすぐ

市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ

内容:みんなでクリスマスパーティーを楽しもう!

会費:500円(中学生以上) *小学生以下は無料

問い合わせ先:関口 ☎090-4281-5641

■「サロン・にしよど」12月の出会い

日時:12月21日(土)午後1時30分~3時30分

場所:西淀川区在宅サービスセンター「ふくふく」

大阪市西淀川区千舟2-7-7

内容:クリスマス会

会費:なし

問い合わせ先:西淀川区在宅サービスセンター

緒方 ☎06-6478-2941

■「サロン『アイ』12月の出会い

日時:12月14日(土)午後1時30分~4時

場所:生野区在宅サービスセンター

「はかちやま」2階ボランティアルーム

大阪市生野区勝山北3-13-20

内容:楽しいハングル語講座と少し早いクリスマス会

パネラー:今村愛照氏

会費:なし

問い合わせ先:生野区社協(ボランティア・ビューロー)

☎06-6712-3101

■《てくてく・すみよし》12月の出会い

日時:12月6日(金)午前11時~午後3時

集合場所=日航ホテルロビー

集合時間=午前11時

内容:ランチバイキング料理

場所:心斎橋 日航ホテル

会費:3000円

申し込み締め切り:11月30日

申し込み・問い合わせ先:山本篤江 ☎06-6692-8411

■「サロンつるみ」12月の出会い

日時:12月15日(日)午後1時30分~4時

場所:鶴見会館2階

大阪市鶴見区横是5-5-51

(地下鉄鶴見緑地線横是駅5番出口)

内容:「サロンつるみ」で聖なるクリスマスの集いを!

~参加者全員でクリスマスケーキを手作りしよう~

会費:なし

問い合わせ先:鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)

田村 ☎06-6913-7070

■「サロンいたみ」12月はお休みです。

声で読書のお手伝い

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で(サロン・あべの)紙第196号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) (サロン・あべの)紙は、第1号より第196号までそろっています。
- (b) (サロン・あべの)十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「(サロン・あべの)平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠 1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ぼけっと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳)

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをします。富田 (☎06・6691・1028) まで。

FROM EDITOR

編集後記

「満月が美しい10月。わが家の今年最後の月下美人が香りよく咲き、20・21・22の3日間で18個でした。わが家の毎年の風物詩です。見てよし、食べてよしの月下美人、今年もありがとうと感謝しています」と、和歌山の方から、196号の感想といっしょにお便りをいただきました。月下美人ってどんな味なんやろ、無粋な編集子、つつい食い気が。(石)

<サロン・あべの>Vol.197 発行:平成14(2002)年11月16日 定価¥100
 編集人:<サロン・あべの>運営委員会 表題:井上憲一・筆 文中イラスト:石田美禰子
 事務局:〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方 <サロン・あべの>
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座:サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷:セルフ社〒546-0044大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDビル2階TEL06-6719-8212